

【指定基準チェック表（第2表） 記載要領】

項目	記載要領	備考
該当区分	「ア」「イ」のいずれか該当する一方に印をしてください。	
【アの場合】 該当区分	ア（活動推進）を選択した場合、（ア）～（カ）のうち該当する区分の記号を記載してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・イ（表彰・活動協力）を選択した場合は記載不要です。 ・（ア）～（カ）の区分の詳細は、別紙（p11～15）のとおりです。 ・該当する区分が複数ある場合は、それぞれ記載してください。
具体的な事業内容	記載した区分に関連した事業内容を記載してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が行う事業のうち、記載した区分に関連しない事業については記載不要です。
【イの場合】 表彰・事業協力の別	イ（表彰・活動協力）を選択した場合、「表彰」又は「事業協力」のいずれか該当する一方を記載してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ア（活動推進）を選択した場合は記載不要です。
具体的な実績	実績判定期間内に法人が地縁団体、市町村又は県から受けた表彰若しくはこれらの団体と協働して行った事業の実績を記載してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・「表彰」を選択した場合は、表彰を受けた日、表彰団体及び表彰の対象となった取組内容等について記載してください。 ・「事業協力」を選択した場合は、取組を行った日とその内容、協働の相手方及び当該団体との役割分担について記載してください。

【添付書類】

- ・（イの「表彰」を選択した場合）具体的な表彰実績を説明する書類

【その他注意事項】

- ・法人の事業内容及び実績が分かる書類について、別途確認させていただく場合があります。

※指定基準チェック表（第2表）アの基準については、次の表を目安に該当・非該当を確認してください。

【参考】鳥取県の将来ビジョン（令和2年10月 鳥取県）<https://www.pref.tottori.lg.jp/125629.htm>

(ア) 新たな時代の扉を「開く」活動

キーワード	将来ビジョンの視点・2030年の鳥取県の姿
(1) 時代の変化に応じ新たな需要を獲得できる産業が創出（ニューノーマル型ビジネス等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナ時代に対応した事業展開として、非対面型ビジネスの取組や感染症対策商品・サービスの開発などニューノーマル型ビジネスの取組が進み、新たな需要を獲得している。 ・国内外の生活スタイルや価値観の変化をチャンスととらえた、ベンチャー企業や新規創業者が県内に多数誕生し、活躍している。 ・立地環境にとらわれることなく、オープンイノベーションをはじめ、県内外・国内外の企業等との連携が活発になっている。 ・ICTの活用やグローバル化の進展に伴い、多くの企業が海外需要を獲得している。 ・官民が連携し、Ma a Sや自動運転、遠隔医療・遠隔診断等の地域の課題を解決する先進的なサービスの開発が進み提供されている。 ・本県の安全・安心な環境が選ばれ、本社機能や研究拠点を県内に移転する大都市圏の企業が増加している。また、部品供給のリスク分散を図るため、県内への立地が進んでいる。 ・関係人口のつながりをベースとして、都市部から県内に拠点を分散させる企業が次々と生まれている。 ・日本海沖のメタンハイドレートの商業化に向けた取り組みが始まり、県内でも研究が進んでいる。
(2) 県内企業が持続的成長を実現（デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり分野をはじめ、食品産業、観光産業、IT産業、バイオ・ヘルスケア産業など、幅広い産業が成長した多軸型産業構造が構築されている。 ・分野や規模の大小に関わらず、幅広くAI・IoT等の先端技術の活用をはじめとしたデジタルトランスフォーメーション（DX）が進み、製品・サービスの付加価値が大きく向上している。 ・先端技術を積極的に使いこなしている県内の中小企業の競争力が飛躍的に向上している。 ・企業間の連携による受注機会の拡大や研究開発の促進などにより、県内企業の成長力が高まっている。 ・中小・小規模事業者の事業が次の世代・事業者に引き継がれ、新たな事業展開が生まれている。 ・産学官の連携により、新たな産業の需要に対応できる、高度かつ多能的な人材が育成されている。
(3) 場所や時間にとらわれない働き方が実現（テレワーク、副業・兼業、ワーケーション等）	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークが県内に浸透し、場所や時間にとらわれない多様な働き方が実現している。 ・企業の人材確保が大きく変化し、県内企業が都市部の人材を採用することや、反対に県内に在住しながら都市部の企業で働くことが広く普及している。 ・サテライトオフィスやワーケーションなど多様な働き方ができるオフィス施設が県内各地に開設され、県内外の様々な人が利活用している。 ・オンラインを活用した職業訓練などにより、希望する職へ就業できるようになっている。 ・一人ひとりの希望や事情に応じてフルタイム勤務にとらわれない働き方（短時間勤務、フレックス）や、副業・兼業など、個人の持っている能力・技術を最大限に発揮できる働き方ができるようになっている。
(4) 農林水産物のブランド確立と多様な担い手が活躍（スマート農林水産物の推進等）	<ul style="list-style-type: none"> ・清浄な水と空気をはじめとした豊かな自然と先人の努力に育まれた梨やスイカ、和牛、カニさらには米、らっきょう、イチゴなど、世界に通じるブランド力を持った農林水産物が次々と生まれ、農林水産物の所得の向上につながっている。 ・県オリジナル新品種などの安全・安心で付加価値の高い農林水産物が県内外はもとより、世界に向けて発信され、輸出が拡大している。 ・優れた種雄牛の遺伝資源を保護し、和牛ブランドの産地として世界的に有名になっている。 ・無人で作業可能なロボットトラクタ・林業機械等を使えるインフラが整い、ドローンによる農薬等散布・苗木運搬・森林情報解析など、農林水産物でAI・IoTの活用が進み、生産性が向上している。 ・農業大学校での実践的な教育の充実やIJUターンの促進、農業普及所等の支援などにより、新規就業や他産業からの参入が進み、多様な担い手が数多くいきいきと農林水産物に従事している。 ・耐久性能が向上したCLTや防火性能が向上したLVLのほか、県産杉のブランド化が進み、県産材全体の付加価値が向上することにより、国内外に販路が拡大している。 ・つくり育てる漁業と資源管理の推進により、限りある水産資源の安定供給が実現するとともに、水産物の高付加価値化や漁業所得の向上につながっている。
(5) 国内外の旅行者が増加するとともに、多様な分野の海外交流が発展	<ul style="list-style-type: none"> ・本県が「豊かな自然」や「美味しい食」、感染症の拡大防止策を講じた「安全・安心な観光地」として評価され、多くの観光客が訪れている。 ・多言語表記や翻訳機器整備などの多言語対応やユニバーサルデザインが普及し、年齢や障がいの有無、国籍に関わらず誰もがストレスフリーな観光を満喫している。 ・世界に誇る山陰海岸ジオパークや大山、まんがなどの地域資源を活かした観光コンテンツが充実し、AIを活用した観光ルートの提案やSNSを使った情報発信により、体験型や長期滞在型観光の適地として、国内外からの観光客が増加している。 ・Ma a Sなどの交通サービスやキャッシュレス決済の普及等、先端技術を活用した快適な受入れ

	<p>環境が整備されている。・ICTの活用やインバウンド対応のできる観光人材が育成され、観光産業が活性化している。・本県の観光や文化資源が、VR・ARを利用して世界に向けて発信され、世界中で本県の認知度が向上している。</p> <p>・サイクリングやセーリングなど自然を活かしたスポーツが充実し、国内外からの誘客が進んでいる。</p> <p>・主要幹線道路や鉄道の整備、空港・港湾の機能向上、国際定期便、チャーター便やクルーズ船の増加等により、国内外との交流が促進されている。</p> <p>・北東アジア地域を中心に、文化、スポーツ、経済、観光などの多様な分野で幅広い国際交流が発展している。</p>
--	--

(イ)様々な活動等を「つなげる」活動

キーワード	将来ビジョンの視点・2030年の鳥取県の姿
(1) 県民、NPO、企業、市町村等との協働により持続可能な地域が実現	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりを自発的に行う意識や環境が定着し、県民一人ひとりやNPO、住民団体が積極的に地域活動に関与するとともに、ボランティア活動への参加がさらに広がっている。 ・県民やNPO等からの政策提案や協定等に基づき、行政と県民、NPO等が協働して施策を実施している。 ・SDGsの理念が県民に広く浸透し、県民の参加と協働による環境保全・社会的課題解決・経済活動の好循環などの持続可能な仕組みが確立されている。 ・企業が県民、行政、NPO等と連携して、公益活動・社会貢献活動、ESG経営48を展開し、持続可能な地域づくりに貢献している。
(2) 移住定住（若者のIJUターン等）や関係人口が増加	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部から理想の子育てやライフスタイルを実現する場としてIJUターンが増加している。 ・先輩移住者や地域団体、行政が連携し、新たな移住者の暮らしをサポートする環境が広がり、移住者が暮らしやすい地域になっている。・管理されていない空き家や農地の所有者と、利活用を希望する移住者とのマッチングにより、中山間地域への移住が増加している。 ・本県出身の多くの若者が、大学等の卒業後に、県内企業への就職のほか、自ら起業・創業するなど本県で希望する仕事に就き定住している。 ・豊かな自然や地域の特色を活かした関係人口受入の取組が各地域で展開され、都市部の人材の副業・兼業、二地域居住やワーケーションが広まり、多様な関係人口の関わりによる地域活性化につながっている。
(3) 住民が安全・安心に暮らし続けられる中山間地域が形成	<ul style="list-style-type: none"> ・住民による共助（支え愛49）や地域の事業者など多様な主体の関わりにより、地域コミュニティが維持され、誰もが安心して暮らせる持続可能な仕組みが整えられている。 ・AI・IoT等を使った買物支援や見守りなど、中山間地域での日常生活の快適性がさらに向上している。 ・Maasや自動運転自動車、交通事業者と地域住民の共助交通50の役割分担などにより、車を運転できない高齢者等であっても、車に頼らずに暮らせる快適な移動サービスが確保できている。 ・管理されていない空き家や農地等に係る所有者の意向を把握するとともに、適切に措置される取組が進み、農地の荒廃や家屋の倒壊が防止されている。 ・廃校等を利用し、地元の生産物や歴史、景観などの地域資源を活用したスモールビジネス51が創出されている。 ・中山間地域の歴史と風土の中で育まれた伝統行事、伝統文化等が、地域の誇りとして維持・継承されている。
(4) 魅力があふれ人が集い、にぎわいのある中心市街地が形成	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて心地よい、環境や人に配慮した緑あふれる中心市街地が形成され、地域内外の多様な人々が行き交い、集う場となっている。 ・空きビルや空き店舗等が魅力的なリノベーションにより新たな利用価値が創出され、中心市街地の賑わいの核として利活用が進んでいる。 ・医療・福祉・商業などの機能の配置・アクセスの最適化が進み、生活の利便性が向上している。 ・公共交通が充実しシェアサイクルやカーシェア等の普及とともに、快適な移動サービスが確保できている。 ・近隣住民による共助（支え愛）等により、高齢者等の見守りの取組など、安心して暮らせる仕組みが整えられている。
(5) 国内外との交通ネットワークや物流拠点が充実	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰自動車道の県内区間が全線開通するとともに、山陰近畿自動車道（岩美道路）が開通し、交流が一層活発になり、経済圏域が拡大している。・鉄道の整備、空港の機能向上、国際定期便やチャーター便の増加等により、国内外につながる陸・海・空のネットワークが強化されている。 ・境港は、新たな岸壁が整備されるなど、船舶の大型化や取扱貨物量の増大を踏まえた機能強化が図られている。鳥取港は、メイン航路の変更により、航路埋塞等の課題が解決され機能強化が図られている。両港の機能強化に伴い港湾を活用した産業振興が進んでいる。
(6) 超高速情報通信網が充実し、ICTの高度活用により産業や生活の質が向上	<ul style="list-style-type: none"> ・光ファイバ網や第5世代移動通信システム（5G）などの超高速情報通信網の整備によりICTの高度な活用のための基盤が県内全域で構築されている。・行政手続きのオンライン化や、オンライン会議・授業や在宅ワークが普遍化するとともに、自動車の自動運転やドローンによる物流、作業が行われるなど、社会全体でデジタル化や技術革新が進み、産業や生活の質が向上している。

(ウ)環境、生活等を「守る」活動

キーワード	将来ビジョンの視点・2030年の鳥取県の姿
(1)新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対応する体制が確立	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな感染症の拡大を可能な限り抑制し、県民の生命及び健康を保護するとともに、県民生活及び県民経済に及ぼす影響が最小となるような医療・保健体制が構築されている。・鳥インフルエンザや口蹄疫、豚熱等の家畜伝染病の発生・拡大を防止する危機管理体制が構築されている。 ・感染症の発生期には、県民や県内企業が一人ひとりの人権を守りながら、感染症の拡大防止と経済活動の両立が速やかに図られている。
(2)循環型社会・低炭素社会が確立(プラスチックごみ・食品ロスの削減、温室効果ガスの削減等)	<ul style="list-style-type: none"> ・4R+Renewable55が定着し、つくる側(生産者)・つかう側(消費者)がそれぞれ責任を持つことで、海洋プラスチックごみを含むプラスチックごみ・食品ロス等廃棄物の発生が抑制され、資源の循環が図られている。・2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて、太陽光発電などの「創エネ」や蓄電池等を活用した「蓄エネ」、節電やエネルギーの効率化等による「省エネ」の相乗効果により低炭素社会化が進んでいる。 ・家庭、企業など地域が主体的に再生可能エネルギーを自らの活動に活用するなど再生可能エネルギーが地域にとって身近な存在となっている。 ・地域のエネルギーとして再生可能エネルギー由来の水素の活用が進んでいる。 ・カーボン・オフセット56等を活用した間伐等により森林が健全化することで、地球温暖化防止などの機能が発揮されている。 ・防災施設の整備や機能強化、農林水産業における技術の確立・普及、新たなビジネス機会の創出等による産業活性化など、気候変動に関する社会的・経済的な損失を最小限に抑えながら、地域における持続可能な発展が図られている。 ・SDGsの理念が県民に広く浸透し、県民の参加と協働による環境保全・社会的課題解決・経済活動の好循環などの持続可能な仕組みが確立されている。(再掲)
(3)人と自然が共生し、美しく豊かな自然が継承(生物多様性の維持等)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の重要性が広く認識され、県民と協働した野生動植物の保護活動や外来種の駆除、工事等での生物多様性への配慮がより促進されるなど、豊かな自然と希少動植物等が保全されている。 ・三大湖沼(湖山池、東郷池、中海)や河川等の良好な水質が保たれ、地下水の保全と利用が確立されている。・光害が抑制され、全国随一の美しい星空環境が創造されている。 ・「とっとり共生の森」など企業と連携した森林づくりが定着しているとともに、地域の子どもの活動も取り入れた形に発展している。 ・自然公園や山陰海岸ジオパークにおける自然観察や登山、シーカヤックをはじめとするアクティビティ(自然体験活動)など、豊かな自然を満喫できるエコツーリズムの拠点となっている。
(4)先端技術を活用した医療、地域貢献、健康づくりの実践で健康寿命が延伸(遠隔医療、フレイル予防、認知症予防等)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人材の確保や救急医療体制の構築により、地域の医療体制が整い、県民が安心して地域で暮らしている。 ・県民一人ひとりの健康づくりと先端技術を活用した健康管理、地域による支援により健康寿命が全国トップレベルに延伸している。 ・医療・ヘルスケア分野での技術革新が進み、地域の医療体制の整備や安全・安心かつスムーズな医療・福祉サービスが提供されている。 ・健康情報のセルフコーディング58の活用などによる疾病予防が進んでいるほか、遠隔医療が広く普及している。 ・家庭においてもICTが普及し、一人暮らしや、外出困難者であっても必要な医療サービスを受受できている。 ・一人ひとりの健康意識が一層高まり、生活習慣病対策、フレイル予防、介護予防・認知症予防の取組が地域ぐるみで実践されている。 ・がんによる死亡率が減少するとともに、がんと診断されても心豊かに自分らしく生きることができ環境が整っている。
(5)地域ぐるみの活動でくらしの安全が確保	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のネットワークを活かし、中高年を含めたひきこもりが未然に防止されるとともに、相談体制の充実や先端技術を活用した社会参画の仕組みが実現している。 ・県民と行政が連携、協力した地域の安全確保により、犯罪被害が防止されている。 ・通学路の安全対策や歩道のバリアフリー化などが進み、安全・安心な歩行空間が確保されている。 ・自動運転技術の普及などにより交通事故が減少している。 ・消費生活相談環境が充実するとともに、高齢者や障がい者等の消費者トラブルを防止するための地域見守りネットワークが構築され、消費者被害が減少している。 ・HACCP(ハサップ)59などの食品の衛生管理が一層向上し、誰もが安心して食を楽しんでいる。
(6)災害に強い県土の形成が進み、防災・危機管理対策が向上	<ul style="list-style-type: none"> ・道路・河川・砂防・治山・港湾等のインフラ整備と耐震化が進展し、災害に負けない強靱な県土が形成されている。 ・AIや、IoTなどの新技術を活用して、計画的なインフラ維持管理が実現している。 ・リアルタイムの情報発信などにより避難の判断・指示が適時に行われ、水害や土砂災害からの逃げ遅れによる死者がゼロになっている。 ・年齢や性別、要支援者等にも配慮された避難所環境の整備が進んでいる。 ・地域の様々な立場の人が企業・支援組織・NPO・住民組織等と平時から協働・連携して暮らし、災害時に誰一人取り残されることなく避難ができている。

(エ) 歴史、自然、文化等を「楽しむ」活動

キーワード	将来ビジョンの視点・2030年の鳥取県の姿
(1) 豊かな自然、食、文化、歴史、芸術を知り楽しむことができる鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の豊かな自然、食、郷土芸能や伝統行事、民芸などの地域文化が大切に守られ受け継がれ、県民誰もが楽しむ機会が充実している。 ・青谷上寺地遺跡公園（仮称）がオープンし、むきばんだ史跡公園とともに弥生時代の重要な文化財を知る学習拠点として利活用されるとともに、観光資源として活用されている。 ・県立美術館等での体験、学習や、鳥取県を拠点に活動するアーティストとの交流等を通じて、幼少期から豊かな創造性が育まれ、誰もが文化・芸術に親しんでいる。 ・ICTを活用した多様な形で、県民誰もが文化・芸術に係る活動や体験、鑑賞ができるようになっている。
(2) ワーク・ライフ・バランスが充実し、活力ある生活が実現	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と家庭の両立を応援する職場環境が推進され、子育てや介護をしている人をはじめ、誰もがライフステージにあわせて働くことができ、一人ひとりのワーク・ライフ・バランスが充実している。 ・地域活動やスポーツ、趣味を楽しむなど、誰もが自由な時間を持つことができている。
(3) いつでもどこでも誰でもスポーツを楽しめる環境が実現	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会・世界大会やキャンプ・合宿が県内で数多く開催され、スポーツに親しむ機会が増えている。 ・多くの県民が世代を超えてスポーツの楽しさを理解し、実際に身体を動かすことで健康づくりにつながっている。 ・年齢や体力、関心や目的に応じて、いつでも、どこでも安全にスポーツ活動を楽しむことができる環境が実現している。 ・アスリートを育成する環境が充実し、日本や世界のトップを目指す子どもたちが出てきている。 ・5GやAR・VRなど先端技術を活用したeスポーツ60の大会が開催され、地域の活性化に繋がっている。
(4) 誰もが学び、主体的にキャリアアップを図る機会が充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく、大人もICTを学習する機会が充実するなど、誰もが生涯にわたって学び直しができ、生活の充実や地域の活性化につながっている。 ・大学と連携したリカレント教育が充実し、主体的にキャリアアップを図る人が増えている。 ・図書館、美術館、博物館等の社会教育施設を活用して、県民が学びの活動を続け、学んだことを活かせるボランティア活動や学校での子どもたちと交流するなど、地域で活躍できる機会が充実している。

(オ) 互いに「支え合う」活動

キーワード	将来ビジョンの視点・2030年の鳥取県の姿
(1) 多様性を互いに認め、支え合う共生社会	<ul style="list-style-type: none"> ・性別、年齢、国籍、障がいの有無、そのほか身体的、社会的状況や文化、習慣の違いに関わらず、互いに認めあい、支え合う社会づくりが進み、誰もが安心して自分らしく生活している。 ・障がいのある方や外国人の方などが、会話手段や言語に関わらずストレスなく意思疎通を図ることができている。 ・ユニバーサルデザインが広く普及し、誰もが暮らしやすい環境が整っている。
(2) 家庭・地域・職場で心豊かに暮らせる男女共同参画社会	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と家庭の両立を応援する職場環境が推進され、子育てや介護をしている人をはじめ、誰もがライフステージにあわせて働くことができ、一人ひとりのワーク・ライフ・バランスが充実している。（再掲） ・社会のあらゆる分野で、性別にとらわれることなく、一人ひとりが個人の能力を発揮し、活躍する機会が確保されている。 ・様々な産業（農林水産、建設、情報通信等）への女性の参画が進み、また企業などでの女性管理職が増加するなど、女性の活躍が広がっている。 ・家事・育児・介護について男性の参画が当たり前となり、家庭や地域での役割を分担し互いに支え合っている。
(3) 障がい者・高齢者がいきいきと暮らす地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方がその特性に応じて能力を発揮できるよう、福祉的就労、一般就労ともに様々な形の就労環境が整い、自らの意思に基づきいきいきと働くことができている。 ・障がいのある方が質の高い福祉サービスを利用しながら、住み慣れた地域の中で安心して、その能力と適性に応じて自立した日常生活や社会生活を営んでいる。 ・高齢者が、フレイル予防、介護予防、認知症予防を実践し、様々な福祉サービスを利用しながら、住み慣れた地域の中で元気に暮らしている。 ・施設等のバリアフリー化が進展し、障がいのある方や高齢者が利用しやすい環境が整っている。
(4) DV、性暴力や児童虐待などの被害者や、支援が必要な方が生活しやすい環境が整備	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取ならではの絆社会を活かし、地域の見守りなどによりDV、性暴力や児童虐待が未然に防止されている。 ・DVや性暴力、児童虐待などの被害者、ひとり親家庭や生活困窮者などが相談できる体制や支援が充実し、安心して生活できる環境が整っている。

(カ) 人を「育む」活動

キーワード	将来ビジョンの視点・2030年の鳥取県の姿
(1) 地域や職場との連携などにより、安心して子育てできる環境が進展	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での支援により出会いの機会の充実や、自らが希望する結婚ができる環境が整っている。・妊娠や出産について、正しい知識の普及が進み、自らが希望するライフプランを実現できる環境が整っている。 ・家庭・職場・地域の連携により、男性も女性も働きながら子育てできる環境が整っている。 ・子育てに係る経済的な負担の軽減やひとり親家庭や多子世帯への支援の充実等により、誰もが安心して子育てできる社会が実現している。 ・放課後児童クラブの充実や年度中途の保育所等の待機児童が解消されるなど、子育て支援サービスがさらに充実している。 ・保育施設等の利用児童数の見込みに応じた保育・幼児教育を行う人材が確保できている。 ・保育・幼児教育の質が向上し、友達との集団生活や遊びを通じて健康な体づくりや豊かな人間性が育まれている。 ・学校・地域と連携した保護者への学習機会の提供、家庭教育支援が充実している。 ・生活困窮世帯やひとり親家庭の子どもたちを含め、希望する子どもが夜間や休日に地域の大人や友達と食事や学習ができる子どもの居場所が整っている。
(2) 地域でチャレンジする者が増加	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学連携によるリカレント教育プログラムや起業家養成プログラムが充実し、様々な年齢やキャリアを持った人材が活躍している。 ・大学や職業能力総合大学校・ポリテクセンター鳥取等との連携・支援のもと、成長分野について必要な知識や技能を身に付けた県内企業の人材が育成されている。 ・地域を題材とした体験活動や地域課題解決に向けた探究的な学習の充実により、社会を力強く生き抜く力が育成され、地域が求める人材が育成されている。 ・地域の特色を活かした魅力的な高等学校・高等教育機関づくりにより、県内外から多くの学生が集まっている。 ・本県出身の学生がICTを使って県内企業の情報を知り、県内で就職する者が増えている。
(3) 子どもたちの地域への愛着と誇りが醸成（ふるさとキャリア教育の推進等）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが鳥取県の豊かな自然や文化、地域で活躍している人や先人の生き方等を通して鳥取県に愛着と誇りを持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度が育成されている。 ・ふるさとキャリア教育により、子どもたちの自立や自分らしい生き方が実現するとともに、将来にわたり様々な場面で鳥取を支えていくことができる人材が育っている。 ・地域、企業・団体、行政など全県で若者のUターンや地元定着に取り組んでいる。
(4) 社会の変化に対応できる力を身につけた人材を育成（主体的・対話的で深い学びの推進、ICT活用教育等）	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を推進することにより、子どもたちの学ぶ意欲が高まり、学力が定着するとともに、思考力、判断力、表現力等が養われ、他者と協働して課題解決することができる力が育成されている。 ・学校へのICT普及（GIGAスクール構想）やオンライン学習の充実など、AI等の技術革新に対応したICT活用教育の実践などにより、変化の激しい社会を生き抜く力を身につけた子どもたちが育っている。 ・キャリア教育やグローバル人材の育成等により、社会に貢献する資質・能力を身に付け、世界で活躍できる若者たちが育っている。 ・ESD教育が推進され、若者たちが持続可能な発展を目指して様々な領域で地域社会に貢献している。 ・特別な支援を必要とする子どもたちが、就学前から就労に至るまでの切れ目のない一人ひとりの教育ニーズに応じた適切な指導と支援を受け、能力と可能性を最大限に伸ばすことができている。